

「ファイナル 天野山金剛寺修理現場特別公開」&建築士・ヘリテージマネージャー植物性資材研修

事業団体	特定非営利活動法人 文化遺産保存ネットワーク河内長野	■事業の目的 ○修理用資材の確保に対する支援体制づくり ○修理用資材に関する効果的な普及啓発手法の開発
活用したふるさと文化財の森	金剛寺境内林	
活用したふるさと文化財の森センター		
活用した文化財建造物	天野山金剛寺重要文化財金堂ほか	

■事業の内容

1 特別公開 11月12日(土)・11月13日(日)10時～16時

1-① 金堂および鐘楼修理現場 参加者約600名

修理中の金堂外陣と覆屋2階を開放し公開した。公開中は(公財)文化財建造物保存技術協会の担当者から午前2回、午後2回見学者に説明会を開催した。また、鐘楼も内部を開放した。

1-② 重要文化財 多宝塔初層特別開扉 壁画公開 参加者約600人
安全柵外側から多宝塔の初層正面扉を開放し扉絵を公開した。

2 実演体験 11月12日(土)13時～16時・11月13日(日)10時～16時

金堂前仮設テント及び境内林 約600名

テント内で技能紗により檜皮葺き、伝統的大工道具の実演を行いその後希望者に大工道具の使用と竹釘の打込み体験を実施し多くの参加者を得た。

また、11月12日は午後1回、翌13日は午前・午後各1回近接する境内林で檜皮採取の実演を行った。

3 ワークショップ 11月13日(日) 13時00分～15時00分

天野酒酒米の糠を使用した糠袋による重要文化財金堂床磨き 参加者30名

親子参加で外陣床面を天野酒酒米の糠を使用した糠袋で磨く体験を行った。最初に天野酒を醸造している西條合資会社社長から糠の由来を説明してもらった後、磨き方の説明をした後、約40分間磨き床面の変化を見てもらった。



金堂公開風景



檜皮葺体験



檜皮採取見学



床磨き(子供たち)

◆ 事業名

Ⅱ 建築士・ヘリテージマネージャー植物性資材研修

1 講演 11月12日(土) 13時00分～14時30分

会場 金剛寺講堂参加者 ヘリテージマネージャー・建築士など30名

岡山理科大学教授江面嗣人氏に『文化財保護の理念とその創造的活用(文化財の意義と地域文化を考える)』の演題で講演していただいた。

2 重要文化財 金堂及び鐘楼見学解説 11月12日(土) 14時45分～15時45分

参加者ヘリテージマネージャー・建築士など 30名

(公財)文化財建造物保存技術協会の修理担当者から説明を受けながら、金堂・鐘楼の修理現場を見学した。



講演会風景



見学会 金堂外陣

■事業の成果

● 親子が参加した金剛寺と歴史的に関係ある天野酒の酒米の糠袋による床磨きは、従来とは違った側面からの啓発アプローチで文化財の重要性と金剛寺の歴史を身近に感じてもらえることができ好評であった。

● 公開事業参加者は延べ1260人であった。覆屋での公開が最後ということで、参加者は感慨深く見学する人が多かった。

■事業の実施後の課題

● 金剛寺・観心寺の境内林を対象としてきたため、どうしても実演や体験が檜皮に偏る傾向があるため、岩湧山の「茅」についての啓発事業が少ない。

● ヘリテージマネージャー・建築士を対象とした研修を実施しているが、参加者等がマンネリ化するため啓発対象をひろげる必要がある。

■今後の展開

● 檜皮を主に対象に実施してきたが、来年度は岩湧山の茅を対象とし、環境も含めてたテーマに大阪府立大学と連携して啓発事業を進めたい。

● また、ヘリテージマネージャー・建築士を対象とした研修を実施しているが、加えて地域の小・中学校教諭を対象に地域教育の教材としてのふる森の研修も実施したい。

◆ 事業名 国産漆の利用と国宝・文化財建造物の保存・修復を考える

事業団体

日本漆アカデミー

■事業の目的

活用したふるさと文化財
の森

浄法寺漆林

国産漆の精製体験では国産漆の精製を体験し、「生漆の評価」に関する講演会等では「生漆の評価」に関する講演会、浄法寺漆林と浄法寺漆品評会見学を行う。また、漆サミット2016では①「国宝・文化財建造物の保存・修復」の基調講演とシンポジウム、②「国産漆の利用を考える」と題する講演会とワークショップ等を行うことにより、国産漆の利用と国宝・文化財建造物の保存・修復を考える。

活用したふるさと文化財
の森センター

活用した文化財建造物

■事業の内容

(1) 国産漆の精製(クロメ)体験

奥久慈工房で国産漆のクロメについて「個人の使い方に合わせた漆の精製」と題するNPO法人杵木呂の会理事長本間幸夫氏の講演が行われ、茨城県産奥久慈漆の採取時期による大まかな特徴、ナヤシ・クロメ作業の基本的な考え等が話された。その後、本間氏やNPO法人杵木呂の会会員の指導によりクロメ桶と櫛によるナヤシ作業、その後日なたでのクロメ作業が行われ、参加者はナヤシ・クロメ作業を体験した。実際に体験することで漆の精製を学ぶことができ、非常に有益であった。

(2) 「生漆の評価」に関する講演会、浄法寺漆林と浄法寺漆の品評会(共進会)見学

二戸市浄法寺総合支所で「平成28年度浄法寺漆共進会によせて」と題する前岩手県工業技術センター理事町田俊一氏の講演が行われ、浄法寺漆共進会に出される漆、出品された漆で「初辺」「盛辺」「末辺」の特徴と審査のポイント等が話された。講演の後、浄法寺漆共進会の開会式が行われ、その後共進会を見学した。共進会の後、浄法寺漆を生産しているふるさと文化財の森(浄法寺漆林)を見学し、岩手大学石井智明氏によるウルシの萌芽更新や、森林総合研究所東北支所産学官民連携推進調整監田端雅進氏によるウルシの植栽・管理の解説があり、参加者でウルシ萌芽更新や植栽・管理について情報共有した。



講演・本間幸夫氏



第38回浄法寺漆共進会見学



基調講演・室瀬和美氏



ワークショップ

◆ 事業名

(3) 漆サミット2016

明治大学グローバルホールで漆サミット2016の開会式を行った後、「文化財修復および制作における国産漆の活用」と題する重要無形文化財保持者(人間国宝)室瀬和美氏による基調講演が行われた。基調講演の後、「国宝・文化財建造物の保存・修復を考える」と題するシンポジウムで岩手県二戸市浄法寺総合支所漆産業課長姉帯敏美氏は「国産漆振興に向けた資源育成」、林野庁特用林産対策室長長江良明氏は「国産漆の生産の現状と課題について」、社寺建造物美術保存技術協会会長荒木かおり氏は「文化財建造物修復における国産漆の使い方と今後に向けて」、(公財)日光社寺文化財保存会漆塗管理技術者佐藤則武氏は「文化財建造物修復における今後の国産漆利用」で講演を行い、その後、森林総合研究所東北支所産学官民連携推進調整監田端雅進氏の司会で上記4氏と「国宝・文化財建造物の保存・修復を考える」について総合討論を行い、今後の国産ウルシの育成や漆掻き職人の養成、文化財建造物修復での国産漆の利用の問題点等を参加者で共有した。また、「国産漆の利用を考える」と題する講演会を行い、NPO法人壺木呂の会理事石井昭氏は「NPO法人壺木呂の会の取組」、(株)堤浅吉漆店専務取締役堤卓也氏は「国産漆の精製と今後の展望」、輪島キリモト代表桐本泰一氏は「輪島の創作工房が生み出す漆器」、MOA美術館館長内田篤呉氏は「漆の利用を美術教育から考える」を講演し、参加者で国産漆の精製や利用、今後の展望などを共有した。また、ウルシの萌芽更新、国産漆の特性、遺跡から出土した縄文遺物の科学分析に関わる成果等のポスター発表が行われた。その後、東北芸術工科大学美術科教授小林伸好氏によるワークショップ「国産漆を利用した創作体験」で参加者が独自で国産漆の塗りを行い、漆の良さを体験した他、別の会場では「国産漆を利用した地域再生」と題する講演会を行い、「国産漆を利用した地域再生」について総合討論し、地域再生の問題と地域再生に向けた新たな取組等を共有した。

■ 事業の成果

- 国産漆の精製の体験、「生漆の評価」に関する講演会、浄法寺漆林と浄法寺漆の共進会见学及び漆サミット2016により、参加者に対し国産漆の利用と国宝・文化財建造物の保存・修復の理解が高まる他、国産漆に対する興味や関心を抱かせることができる。
- 国宝・文化財建造物の保存・修復の分野で浄法寺漆の需要が増加し、国産漆の安定的な確保が期待される。

■ 事業の実施後の課題

- 国宝・文化財建造物の保存・修復への国産漆100%利用に向けて、全国的に良質で健全なウルシ林を造成する他に、ウルシ資源の造成や漆掻き職人の養成及び地域住民の理解等が重要な課題である。
- 漆の利用に関わる美術教育を若い年代から行い、「社会モデル」の中での漆の利用を考えることが重要である。

■ 今後の展開

- 講演会、セミナー、体験教室、見学会において一般の方々等に対し、国宝・文化財建造物の保存・修復に不可欠な国産漆の広報や普及を行う予定である。
- 来年度は情報交換や相互理解、協働作業を通して漆産業と技術・文化の更なる継承と発展を図る目的で、日本漆アカデミー主催の講演会、体験教室、漆サミット等を開催する予定である。

◆ 森が支える日本の技術2016公開セミナー

事業団体

公益社団法人
全国社寺等屋根工事技術保存会

活用したふるさと文化財の森センター

京都市文化財建造物保存技術研修センター

活用した文化財建造物

仁和寺観音堂、清水寺（境内）

■事業の目的

檜皮葺や柿葺、茅葺など古来から伝わる伝統的屋根工事技術は我が国が世界に誇る文化であり、これらの技術を後世に伝えることが伝統技術を保存する団体としての責務だと考える。そのためには、より多くの国民の理解を得ることが重要であり、文化財建造物保護のために必要な植物性資材の原材料作成及び使用方法（技術）や人材（技術者）の育成を中心に保存技術について広く一般の方々を対象に普及啓発を図る。当該事業を通じ、文化財保護における資材の重要性の意識を高め、知識習得の場を提供することを目的とする。

■事業の内容

(1) 将来の担手養成に関するプログラム

1 文化財建造物を支える資材・技術に関する講義

日時：平成28年11月5日（土）10:15～11:45
場所：京都市文化財建造物保存技術研修センター
講師：東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授 山本博一
対象：林業を専門とする学生、文化財修理経験者
内容：「文化財を支える森林」

2 保存修理現場見学

日時：平成28年11月5日（土）、6日（日）13:00～14:30
場所：重要文化財 仁和寺観音堂
対象：事前応募者（11/5講義、11/6講演会参加者）
内容：保存修理現場での実地研修
協力：京都府教育委員会文化財保護課

(2) 資材採取方法の実演、展示、研修

1 檜皮採取実演

日時：平成28年11月5日（土）、6日（日）13:00～14:30
場所：高台寺山国有林（京都市東山区）
対象：事前応募者（11/5講義、11/6講演会参加者）
内容：当会所属の若手技術者（檜皮採取研修生）による技術の実演
協力：近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所

2 ふるさと文化財の森を活用した資材育成・確保の取組（パネル展示）

日時：平成28年11月5日（土）9:30～6日（日）16:00
場所：清水寺会場特設テント、京都市文化財建造物保存技術研修センター
内容：（公社）全国社寺等屋根工事技術保存会がこれまで行ってきた資材の育成・確保の取組や将来の担手育成の取組を紹介。

3 資材の重要性の理解、採取方法を習得するための研修

1 ヒノキの植樹

日時：平成28年11月11日（金）
場所：鞍馬山国有林内「古事の森」（京都市左京区）
講師：近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所 森林官
対象：文化財修理経験者
内容：檜皮葺に欠かすことのできないヒノキの樹種としての特性や育成方法について学び、実際に植樹や保育作業を行う事で、森を育てることの意義について学ぶ機会とする。

2 葦刈研修

日時：平成29年2月18日（土）
場所：西の湖（滋賀県近江八幡市安土町豊浦）
対象：文化財修理経験者、若手技術者ほか
内容：葦の資材確保の重要性や資源を生かす技術について考える機会とする。
協力：安土町商工会



文化財建造物を支える資材・技術に関する講義



檜皮採取実演



葦刈研修

◆ 森が支える日本の技術2016公開セミナー

(3) 文化財講演会

広く一般の方を対象とした講演会を開催する。文化財を取り巻く課題や引き継いでいくべき精神性など、講演会を通じて理解を深めて頂く。

日時：平成28年11月6日(日)10:15～11:45
場所：京都市文化財建造物保存技術研修センター
講師：賀茂別雷神社(上賀茂神社) 宮司 田中安比呂
対象：一般参加者(事前応募による)

(4) 檜皮葺を支える山と人 ～子供向けプログラム～

未来を担う子供たちを対象に伝統技術を体験・学習する場を提供する。

檜皮採取実演見学や清水寺会場での講義、体験学習や研修センターでの展示見学を実施する。

日時：平成28年11月6日(日)10:00～16:00
場所：清水寺会場、高台寺山国有林、京都市文化財建造物保存技術研修センター
講師：(公社)全国社寺等屋根工事技術保存会 理事 栗山弘忠、大野浩二
対象：京都市内の小学生
協力：京都市教育委員会、近畿中国森林管理局 京都大阪森林管理事務所



檜皮葺を支える山と人

(5) パンフレット等広報物の配布

実演会場である高台寺山周辺は清水寺が隣接し、国内外を問わず多くの観光客が訪れる。

日本の誇る伝統技術(屋根工事技法)を海外に向け発信するため、配布するパンフレットは日本語、英語版に加え 中国語、韓国語版を用意する。また子供にも分かりやすく解説したパンフレットも配布し、より幅広い年代層に理解を深めてもらう。さらに会場内にはモニターを設置し、技法紹介のDVD上映も行う。

(6) 京都府名誉友好大使の活用

京都府知事が任命する関西在住の名誉友好大使(外国人留学生等)を登用し、来場される外国人に技術の説明を行って頂き、技法の海外発信の足掛かりとしたい。

日時：平成28年11月5日(土)～6日(日)
内容：檜皮葺を支える資材、技術の紹介(パンフレットの配布・説明)
協力：京都府国際課



パンフレット等広報物の配布

■事業の成果

これまでは植物性屋根資材全般について幅広いプログラムを展開してきたが、内容を変更し、檜皮葺に焦点をあてて開催したことで、プログラム自体の深化は得られたと考える。

ふるさと文化財の森に指定されている資材の3割が「檜皮」という状況から、焦点を絞った開催には、ある一定の意義があったのではと思う。若手技術者や親子を対象とした「文化財講座」では、講義・実演見学・体験と技術を一連の流れの中で見て頂くことができ、大変好評であった。清水寺会場には1,500名をこえる来場者があり、盛況のうちに終了することが出来た。その他、養成研修事業の公開、京都府主催の現場公開とのタイアップ、植樹など数多くのプログラムを実施し、資材や技術者の育成、そして檜皮葺建造物を支える技術の大切さを多くの方に感じて頂けたのではと思う。

■事業の実施後の課題

(1) 事業費予算について

檜皮葺に特化したプログラムは参加者にとっては、より深い知識が得られるため効果的であったと思うが、植物性資材全般を扱う団体としては、やはり檜皮葺、柿葺、茅葺を包括的に組み入れたプログラムの実施が不可欠化と考える。

今年度から大きく変更された事業費予算計上の可否については、ある程度理解はしているつもりであるが、伝統的屋根工法全体の普及啓発を実施する事が我々の責務であるし、「檜皮葺」だけではない他の資材の重要性を知って頂かなければ、これら植物性屋根を用いた伝統的建造物の保存は難しいのではなかろうか。特に「内部支出」と言われる当会所属の職人の旅費、宿泊費など事業を進めていく上で必要最低限の経費に関しては認めて頂いても良いのではと感じる。我々の技術をより多くの方に知って頂くと思えば、「外部講師」だけでは難しく、実際に現場に立つ職人の声は何よりも大切である。

他の団体も含め、すべての普及啓発プログラムをある一定の枠の中におさめること自体に無理があると思うし、プログラムの内容を精査頂き、また実施団体の内情を加味した柔軟な経費計上方法を是非とも検討して頂きたいと思う。

(2) 実施期間について

この事業は、事業の開始時期が事業採択後となるため、広報の開始が遅れるのは否めない。これにより参加者への周知が行き届かず、思ったほど参加者が少ないのが現状である。採択を早めて頂ければ、ある程度多くの期間をつかって準備を進められると思う。

■今後の展開

今年度で11回目を迎えたセミナーの開催であるが、「ふるさと文化財の森システム推進事業」普及啓発事業は我々の想いと一致する非常に意義の深い事業である。ただ、前述したように、経費計上方法の変更は、我々が望む普及啓発事業の一部しか実施できない現状を考えると、少ない費用でより大きな効果を生み出すような工夫をしなければならない。

SNSを活用した広報の実施など、取り組むべき課題はあるが、今ここで答えを見つける事は困難である。これまで通りの実施事業を、今年度のように自主事業として行っていくための原資を負担し続ける事は難しいと思われるし、かと言って、プログラム内容の縮小は、植物性屋根資材の育成・確保、後継者の育成に対する普及啓発に、何らかの支障が出てくる恐れもあると感じている。運営方法にも課題は残っているが、実施内容については要綱等を精査し、今一度、協議を進めながら最大限の効果を発揮できるような事業を考えていきたい。

◆ 信州における茅の育成・採取・加工に係る担手養成のための普及啓発事業

事業団体	一般社団法人 日本茅葺き文化協会
活用したふるさと文化財の森	牧の入茅場
活用した文化財建造物	ロッジ樺旅館主屋 (国登録有形文化財)、他

■事業の目的

本事業では、ススキとカリヤスの植生およびその育成、採取、加工、保管、葺き方の相違や特徴を明らかにし、冊子「北信州の茅葺き 技と風景」およびDVD「北信州の茅葺き 茅場と茅刈り」にまとめる。その教材を用いて技と知恵を継承し、その普及啓発をはかることを目的とする。

■事業の内容

(1) 茅の育成・採取・加工等の研修

日時 平成28年10月22日(土) 会場 牧の入茅場(ふるさと文化財の森)

対象 一般市民、地元住民 参加者 28名

熟練者の指導のもと、カリヤスの茅刈り研修を行った。参加者は5~6班に分かれ、各指導者から鎌での刈り取り方法、束ね方、茅立ての方法、乾燥保管の方法について、茅場の維持管理および茅刈りの一連の作業を体験し学んだ。参加者の手によって、74 立て、約450 把分の茅刈りを行うことができた。

(2)-1 茅葺きの研修 見学研修

日時 平成28年10月23日(日) 会場 小谷村千国真木集落

対象 一般市民、職人 参加者 28名

廃村となりその後都市部からの移住者が共同生活を営み茅葺き民家集落を維持している千国真木集落の見学研修を行い、その住民と茅葺きの維持管理について意見交換をして交流した。この集落は南小谷の駅から車道はなく、1時間半ほど山道を歩いて行くことしかできない。参加者は、住民の依頼で茅の運搬作業を手伝った。1人2~4把ずつ背負子で担いで、山道を歩いて届けた

(2)-2 茅葺きの研修 体験研修

日時 平成28年10月23日(日) 会場 ロッジ樺旅館主屋(国登録有形文化財)

対象 一般市民、職人 参加者 26名

国登録有形文化財のロッジ樺旅館主屋の葺き替え現場にて、茅葺き体験研修を行った。まず小屋裏から茅葺きの屋根構造と下地について職人から説明を受け、この地域の茅葺き屋根の構造の特徴を学んだ。この地方でヌキブキ(シマブキ、トラブキ)と呼ばれる古い茅を引っ張り抜いて選別した古茅を新しい茅と交互に葺く方法を体験研修し学んだ。

(3) 茅の育成・採取・加工等に係る講義(茅葺き文化講座)

日時 平成28年10月22日(土) 会場 柵池高原ホテル多目的室

対象 一般市民、地元住民 参加者 30名

信州大学の井田准教授が、小谷村牧の入茅場における野火つけの効果について講義した。火入れをやめると、茅の密度も高さも低くなり重量も軽くなることが明らかとなったという内容であった。参加者は茅場における火入れの効果についてあらためて理解を深めることができた。地元の茅葺き職人の親方である松澤敬夫氏が、北信州における茅葺きの技能と茅葺き民家の特徴について講義した。

(4) 「北信州の茅葺き 技と風景」記録 教材の作成と配布

日時 平成28年10月~平成29年3月

1 北信州の茅葺き民家の風景と技について、「北信州の茅葺き 技と風景」として英訳付きの冊子を作成した。

2 茅場と茅の採取、加工について、「北信州の茅葺き 茅場と茅刈り」として英訳付きでDVDを作成した。

これらの冊子とDVDは、小谷村教育委員会、地元小中学校、周辺市町村の教育委員会、図書館、地元住民および国際茅葺き協会理事などに配布した。

(5) 「北信地方の茅葺き」学習会

日時 平成29年3月1日(水) 会場 小谷小学校

対象 小谷小学校児童(4~6年生) 参加者 61名

北信州の茅葺きについて、小谷小学校の4年~6年生を対象に学習会を行った。世界や日本の他の茅葺きについて紹介した後、小谷村の茅葺き職人である松澤さんより北信の茅葺きの歴史や特徴について、詳しく説明した。職人の道具やカリヤス、ススキ、麻殻など茅葺きの材料と茅葺き屋根の断面模型など実物も展示された。



茅の育成・採取・加工の研修



茅葺きの研修



茅の育成・採取・加工等
に係る教材の作成・配布



学習会

■事業の成果

①茅の育成・採取・加工等の研修

(1)茅の育成、採取、加工の研修

- 1 ふるさと文化財の森の牧の入茅場において、小谷屋根および小谷村熟練者の指導のもと、カリヤスの茅刈り研修を行った。参加者は5～6班に分かれ、各指導者から鎌での刈り取り方法、束ね方、茅立ての方法、乾燥保管の方法について、茅場の維持管理および茅刈りの一連の作業を体験し学ぶことができた。
- 2 指導にあたった地域住民と都市部からの参加者の交流をはかることができた。
- 3 参加者の手によって、74 立て、約450 把分の茅刈りを行うことができた。

(2)茅葺きの研修

1)見学研修

- 1 廃村となりその後都市部からの移住者が共同生活を営み茅葺き民家集落を維持している千国真木集落の見学研修を行い、その住民と茅葺きの維持管理について意見交換をして交流した。
- 2 参加者は、住民の依頼で茅の運搬作業を手伝い、往時の茅刈りの運搬の苦労を体験し学ぶことができた。

2)体験研修

- 1 国登録有形文化財のロッジ樺旅館主屋の葺き替え現場にて、茅葺き体験研修を行った。まず小屋裏から茅葺きの屋根構造と下地について職人から説明を受け、この地域の茅葺き屋根の構造の特徴を学んだ。
- 2 この地方でヌクブキ(シマブキ、トラブキ)と呼ばれる古い茅を引っ張り抜いて選別した古茅を新しい茅と交互に葺く方法を体験研修し学んだ。

②茅の育成・採取・加工等に係る講義

信州大学の井田准教授が、小谷村牧の入茅場における野火つけの効果について講義した。火入れをやめると、茅の密度も高さも低くなり重量も軽くなることが明らかとなったという内容であった。参加者は茅場における火入れの効果について理解を深めることができた。地元の茅葺き職人の親方である松澤敬夫氏が、北信地方における茅葺きの技能と茅葺き民家の特徴について講義した。

③茅の育成・採取・加工等に係る教材の作成・配布

(1)教材の作成と配布

- 1 北信州の茅葺き民家の風景と技について、「北信州の茅葺き 技と風景」として英訳付きの冊子を作成した。
- 2 茅場と茅の採取、加工について「北信州の茅葺き 茅場と茅刈り」として英訳付きでDVDを作成した。これらの冊子とDVDは、小谷村教育委員会、地元小中学校、周辺市町村の教育委員会、図書館、茅場管理者である親沢北観光委員会ほか地元住民および国際茅葺き協会理事にも配布した。

(2)学習会

北信州の茅葺きについて、小谷小学校の4年～6年生を対象に学習会を行った。世界や日本の他の地域の茅葺きについて紹介した後、小谷村の茅葺き職人である松澤さんより北信の茅葺きの歴史や特徴について、詳しく学んだ。職人の道具やカリヤス、ススキ、麻殻など茅葺きの材料と茅葺き屋根の断面模型など実物も展示され、それらに触れながら子供達は興味深く学ぶことができた。終了後に学校関係者より、今後もこの茅葺き学習会を継続して開催したいという要望が寄せられた。

■事業の実施後の課題

1日目に茅刈り研修、夜に茅葺き文化講座、2日目に茅葺きの見学研修と体験研修を行う研修の日程であった。茅場から茅刈り、茅葺き民家、茅葺きの葺き替え現場まで、茅葺きに関する全体を一貫して研修を行うことは、茅葺きの全体像を理解する上で非常に効果があった。その一方で、各研修の内容が豊富でそれぞれの研修を深める時間が足りなかった。もう少し時間をとることができれば、さらに研修を深めることができたと思われる。そのためには2泊3日というスケジュールが必要となるが、週末だけの参加しやすいスケジュールとの兼ね合いがあり、今後の検討課題としたい。

■今後の展開

- (1)本事業の学習会で子供達に茅葺きへの関心を深めることができたが、今後、茅刈りの研修、茅葺きの体験研修にも参加する機会を設けて、その理解をさらに深め、その先に茅葺き文化を守る地域の担手として、また職人の後継者としての育成につなげたい。
- (2)茅刈り、茅葺き研修を、これまでは一般市民と学生向けの普及啓発プログラムとして一定の成果をあげてきた。それに加えて、今後は、若手職人、建築技術者、文化財修理技術者など、専門家向けの研修プログラムとしても発展させていきたい。

◆ こけら葺きの技術 —文化財建造物(勝興寺)公開を通じて—

事業団体

伝統文化伝承フェア実行委員会

■事業の目的

活用したふるさと文化財の森

—

活用したふるさと文化財の森センター

—

活用した文化財建造物

勝興寺本堂、大広間及び式台、台所、書院及び奥書院等

○修理用資材である「こけら板」の加工手順や施工を見て、自らこけら葺き作業の体験ができる事業とし、植物性資材について深い国民的理解を図る。
○文化財建造物の修理には多くの木材が必要であり、修理資材の確保や技術者の育成等の重要性について普及啓発を行う。

■事業の内容

平成28年11月13日 [9:00~17:00]

(1) オープニングセレモニー

参加者、関係者を含めてオープニングセレモニーを開催した。本委員会、田中健太郎委員長の挨拶。

(2) 講演会①〔午前〕

講演者…勝興寺修理事務所所長 東坂 和弘氏 会場…勝興寺本堂 参加…120名
「勝興寺保存修理の材料と技術」と題して、材木の切り出しから「こけら板」になるまでのプロセスについて、茅木舞搔きや土壁づくりのプロセス等をお話いただいた。

(3) こけら板づくり実演、こけら葺き実演・体験等

実演…(株)児島工務店 会場…勝興寺素屋根内
屋根葺き道具の展示。こけら葺き屋根断面模型の展示。みかん割り、分取り、板割りの実演。こけら葺きの実演、一般見学者による竹釘の打ち込み体験を実施した。



(1)オープニングセレモニー
本委員会
田中 健太郎委員長



(2)講演会①
勝興寺修理事務所所長
東坂 和弘氏



(3)屋根葺き道具の展示



(3)こけら葺き屋根断面模型の展示



(3)みかん割り実演



(3)板割り実演



(3)こけら葺き実演



(3)竹釘打ち込み体験

◆ こけら葺きの技術 —文化財建造物(勝興寺)公開を通じて—

- (4) 茅木舞搔き実演、土壁塗り実演・体験等
実演…中島左官(株) 会場…勝興寺素屋根内
左官道具の展示。茅木舞搔きの実演。
土壁塗り実演。一般見学者による土壁塗りの体験を実施した。



修理現場の見学

- (5) 打ち割り製材、鉦掛け実演、鉋掛け体験等
実演…田中工匠 会場…勝興寺素屋根内
大工道具の展示。打ち割り製材の実演。鉦掛けの実演。一般見学者による鉋掛けの体験を実施した。

- (6) 講演会②〔午後〕
講演者…文化庁文化財部参事官(建造物担当)修理指導部門 主任文化財調査官 上野 勝久氏
会場…勝興寺本堂 参加…130名
「文化財建造物における保存修理とその資材」と題して、全国各地の文化財建造物の修理事例を紹介しながら”ふるさと文化財の森システム推進事業”の概要・重要性についてお話いただいた。

- (7) 錦帯橋模型組立・展示
実演…岩国市産業振興部錦帯橋課、錦帯橋架け替え工事 棟梁:海老崎 桑次氏
会場…勝興寺素屋根内
橋を造る高い技術、木材でも強度がある木造アーチ橋を通して、資材・大工技術等に関する理解を深めるために、1/5スケールの錦帯橋模型の組立体験を一般見学者により実施し、その後展示を行った。



(4)茅木舞搔きの実演



(5)鉦掛けの実演



(6)講演会② 文化庁文化財部参事官
主任文化財調査官上野 勝久氏



(7)錦帯橋模型組立・展示

■事業の成果

- アンケート結果より約9割の参加者から「よく理解できた」と回答があり、植物性資材の重要性について普及啓発できたと考えている。さらに9割を超える参加者から今後の事業に参加したいという結果があり、本事業の効果があつたと考えている。
- 参加人数は1,021名

■事業の実施後の課題

- 新聞による事前告知はしたものの、参加者の約6割が60歳以上の方であり、若年層への参加も促すために、近隣の高校や大学への広報等をすすめるべきではないかと考える。

■今後の展開

- 高岡市内では重要文化財勝興寺の修理に限らず、重要文化財気多神社本殿のこけら葺き屋根の葺替が終わったところで、国宝瑞龍寺山門等、こけら葺き屋根の葺替修理が近く実施させる予定である。こうした市内の文化財建造物の保存修理に、広く関心を持ってもらえるようにしていきたい。